

商 況

八幡製鐵所販賣旬報 第 65 號 昭和 3 年 8 月 1 日

**坑木代用としての軌條屑の需要** 大正 12 年初めて坑木代用として注目せられた本所の軌條屑は其後販路も擴張に伴ひ、漸次九州一圓及遠く北海道滿洲の炭坑に於て使用さるゝに至り現在では需要に比し供給力の不足を嘆ずる程となつた。

販賣開始以來の賣却高次の通り

年 度	大正12年度	大正13年度	大正14年度	大正15年度	昭和 2 年度	昭和3年度7月迄
噸 數	762	1,033	1,250	1,800	5,556	3,688
金 額	63,845	82,048	87,354	118,671	358,950	259,265
1 ヶ月平均	63	86	104	150	463	922
平均單價	83.70	79.20	69.80	65.90	64.60	70.30

猶本年 7 月 10 日改正せる軌條屑價格次の通り。

60 封度 當所渡 1 噸に付 74 圓 75封度 同 72圓 100 封度 同 65圓 其他 同 72圓

備考 (1). 不定尺(6呎-18呎)のものゝ注文は 4 圓引、(2). 各種共 1 時に 100 噸以上の注文は貳圓引、(3). 60封度及 75封度のものにして定尺以外の長さ指定は 3 圓増、但し定尺は 6, 7, 8, 9, 10呎の 5 種とす。

**鋼板需給大觀** 昭和 2 年(自 1 月至 12 月)中の我國に於ける鋼板の供給數量は總計 65 萬 7,000 噸に達する、供給數量を基礎として需要數量の大勢をも概觀し得るであらう。

供給數量を (1)品種別 (2)厚別 (3)供給者別に分てば下の通りとなる。(單位噸)

(1) 品 種 別

鋼 板	縞 鋼 板	ユニバーサル平鋼(本所丈)	硅素鋼板	鉍力板	亞鉛引板(輸入丈)	計
555,456	5,503	3,521	12,426	78,433	1,522	656,870
84.5%	0.9%	0.6%	1.9%	11.9%	0.2%	100.0%

備考 ユニバーサル平鋼は輸入殆んどなく、ありとするも統計上鋼板と併せて整理さる。亞鉛引板にして内地生産のものは鋼板の中の薄板と重複する故省略す。

(2) 厚 別

厚 板	中 板	薄 板	計
192,020	104,468	360,382	656,870
29.2%	15.9%	54.9%	100.0%

備考 厚さの限界は本所工場に準じ、6 mm超、6 mm超以下 1 mm以下の分類に依る。

(3) 供給者別

本 所	民 間	輸 入	計
186,036	168,582	302,252	656,870
28.3%	25.7%	46.0%	100.0%

**4 分丸の需給に就て** 大正 13 年以降の本邦 4 分丸(12 mmを含む)供給概數は下の通りである。

大正 13 年	大正 14 年	昭和元年	昭和 2 年
約 39,000 噸	約 40,000	約 48,000	當所生産高 27,000 民間 22,200 輸入 7,900
計	57,100 (4分と3分の中間のものを含む)	月平均 4,750	
月平均 3,200	3,300	4,000	

本年1月以降の市場への供給數量を掲記すれば下の通り。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
當所品引渡高	3,332	1,029	3,759	1,689	5,171	3,926	18,906
民間生産高	1,533	1,583	2,388	1,059	(1,878)	(1,344)	9,785
輸入	65	307	323	27	7	42	771
計	4,930	2,919	6,470	2,775	7,056	5,312	29,462
東京卸賣平均相場	3.37	3.37	3.43	3.50	3.80	3.90	—

備考 民間生産高中の括弧は淺野小倉の分を含まず。

即ち6月まで月平均 4,900 噸の供給あり前掲數年來の供給數量の趨勢より判断すれば3分など、異なり至極圓滑順潮なる需給状態にあつたと云へよう。随つて市場も此數字を裏書きして平靜なる推移を續けて來たが7月に入り當所品の引渡高が3分丸の壓迫を受け稍鈍くなつた爲め逐次に上伸して居る様である。

### Continental Steel Ingot Combime の新協定

同組合は7月13日デネセルドルフの會合に於て超過生産高に對するペナルティの協定に關し重要な變化を決定した。現在迄好意的に獨逸メーカーに許して居た(超過生産高に對して噸當り4弗のペナルティを1弗とす)のを廢止して組合の總ての者に對して一様に次の如く決定した。

最初の超過生産	7 $\frac{1}{2}$ %	に對して	噸當り	1弗
次の同	2 $\frac{1}{2}$ %	"	同	2弗
總ての同	超 10%	"	同	4弗

獨逸メーカーは以前の 275,000 噸(本年3月迄は 225,000 噸)であつたのが、月當り 300,000 噸の割當と決定されて、事實は或る代價を得た譯である。

獨逸の1ヶ月總割當である 1,050,000 噸の 62% 即ち 755,000 噸を内國市場に出し、残り 28% 即ち 294,000 噸を輸出するには、ペナルティは科せられない。然し輸出は已に 300,000 噸に達して居る。

以前の中歐團體はチェツコ・スロバキア、オーストリア、ハンガリーの3つに分離した。チェツコスロバキアのメーカーは内國市場に於ては、全然自由であり、輸出割當は年額 234,836 噸である。オーストリアのメーカーの割當は 411,000 噸で、ハンガリーのレマミュラニー會社の割當は 300,000 噸で何等の變化も受けない。

**白耳義市場の趨勢** 白耳義の製鐵所では熔鑪爐新設に就て巨多の計畫があるが、それによれば現在月産 32 萬噸即ち年産 384 萬噸に近い能力を有する同國は遅くも 1,929-30 年には年産 500 萬噸の鋼塊の生産能力を有するに到るであらうと豫想されて居る。

從つて同國製鋼業者は、譬へ同國より英本國への鐵鋼輸出高が目立つて減少して居ると云ふても、彼等の鐵鋼の生産が國際市場裡に於ては充分な競争力を持續し得る確信を有して居る。英國への輸出は本年1月-5月間は前年同期の 675,934 噸に比し僅かに 435,417 噸である。最も丁度此期間が英國のリベート、スキームに當つて居たことに注意して見たい。

殊に型物及鋼板は下表に見る通り英國への輸出の減少率の最も甚だしいものである。

	1928年	1927年
型物	34,233	56,904
鋼板	41,735	76,432

之れに反し獨逸への輸出は前年の 157,599 噸(18,859 噸のスクラップを含む)に比し本年は 1月-5月間の輸出にても已に 272,207 噸(64,981 噸のスクラップを含む)と云ふ増加振りである。

叙上の通りベルギー市場の現今の趨勢を見れば賣手は現在の状態よりは多少好調を保ち得るものと思はれる。成程大口の取引の無い事は確かであるが猶小口の注文は可なりある。即ち東洋の需要も市場にあるし、また E.R.M.A のルール注文の一部もベルギーのメーカーへ發せられた E.R.M.A は未だベルギー鐵道省の例年の大口注文に望みを懸けて居る。

獨逸メーカーは棒鋼で約 5-13-6、工形で約 4-16-6 と白耳義メーカーの相場に接近して來て居るとは云へ獨逸は此競争には大して熱のあるものではない。

半製品は白耳義メーカーとしては比較的早積の注文は引受けぬ傾向である。

白耳義値段は次の通りである。(F. O. B. Port)

ピレット 4' 4-12-6 シートバー 4-14-0、乃至 4-15-0 棒鋼 5-12-6、乃至 5-13-6  
 工形 4-16-0 鋼板  $\frac{3}{16}$  6-6-0 乃至 6-6-6 "  $\frac{3}{32}$ " 6-13-0 乃至 6-13-6 線材ベース 6-10-0

副製品に就て

1. 純ベンゾール、純トルオール需要増加 モーターゾールの當所品 7 月—8 月渡の新価格は曩に發表したが恰も市場在庫高逼迫のため、一般市況の前途益々好轉を豫想されて居ることと相變らず需要引續き荷渡に全く汲々として居る折も、近來ベンゾールの本來の使命は云々とか、國産品奨励のため云々等と、染料會社方面から純ベンゾール純トルオール供給の希望が旺盛となり、限りある生産能力に對して用途を異にした兩ベンゾールの需要殺倒に全く面喰ひの形である。

目下日本染料製造株式會社、三井鑛山株式會社及び帝國染料製造株式會社と純ベンゾールを、株式會社岩井商店、日本染料製造株式會社と純トルオールを定期契約を結んで居るが、何れも先日 7 月以降 12 月中渡新価格を下記の通り發表した。

1 純ベンゾール(當所工場渡正味 1 噸當り) 一口 200 噸以上契約の場合 金 150 圓替 " 100 噸以上 " 金 160 圓替 " 100 噸未満 " 金 170 圓替

2 純トルオール(當所工場渡正味 1 噸當り)契約數量に關係なく 金 250 圓替

2. タール工場製品減少 當所工場製作業の關係から 7 月以降燃料タールの使用高が、各月 300 噸乃至 350 噸増加する事となり、従つて本年度中に約 1,700 噸の燃料タールを増産する事となつたので、タール工場生産の副製品は下記の通り減産の餘儀ない状態になつた。

勿論問題となる程の數字ではないが、夫れでなくとも供給數量不足の折柄であるし、今後の契約數量を多少手心する必要がある。

品 名	ピッチ	クレオソート油	ナフサリン	アンスラシン	良質ピツコーク	有煙ピツチコーク	二號石炭酸	二號クレゾール	一號クレゾール
各月生産豫定	2,193 噸	1,322	220	49	138	51	7	2	14
各月新生産豫定	2,078 噸	1,261	212	47	138	51	6	2	8
減 少 量	115 噸	61	8	2	0	0	1	0	6

10月積先物賣行概況——細丸旺盛

一、條 鋼

(1) 賣出噸數

一、二小形	三、小形	線 材	一中形	二中形	一大形	二、三大形	軌 條	計
1,000	1,000	200	1,000	1,000	1,000	2,000	200	7,400

(2) 申込噸數

	丸	角	平	等 邊	不等邊	溝	工	計
東 京	10,950	46	929	291	220	305	384	13,125
大 阪	5,155	275	1,385	2,061	980	1,382	2,027	13,266
名 古 屋	879	251	112	30	28	14	—	1,214
其 他	545	64	350	137	—	19	—	1,115
計	17,529	536	2,777	2,519	1,228	1,720	2,410	28,720

(3) 引受噸數 [定期及先物(括弧内)]

工場	品名	丸	角	平	等 邊	不等邊	溝	工	計
線 材		500 (200)	—	—	—	—	—	—	500 (200)
一 小		—	120 (123)	3,450 (748)	150 (133)	—	—	—	3,720 (1,004)

三 小	4,160 (906)	—	—	220 (90)	—	—	—	4,380 (996)
一 中	—	145 (85)	935 (590)	—	70 (226)	50 (100)	—	1,200 (1,001)
二 中	520 (227)	100	—	1,235 (548)	245 (85)	—	—	2,000 (960)
一 大	—	—	—	140 (38)	896 (349)	764 (520)	108	1,800 (1,015)
二、三大	—	—	—	871 (487)	—	348 (432)	481 (1,045)	1,700 (1,964)
軌 條	—	—	—	—	—	100 (91)	200 (201)	300 (292)
計	5,180 (1,333)	265 (308)	4,385 (1,338)	2,616 (1,296)	1,211 (660)	1,262 (1,143)	681 (1,354)	15,600 (7,432)

## 二、鋼 板

## (1) 賣出、申込、引受數量(指定寸法のもの)

	賣 出	申 込	決 定
厚 板	1,510	767	767
一 中 板	800	7,251	800
二 中 板	800	7,737	790
計	2,390	15,755	2,357

## (2) 揚地別申込數量(指定外寸法のものを含む)

	東京	大阪	名古屋	其他	計
厚 板	320	370	90	56	836
一 中 板	5,100	3,405	185	104	8,794
二 中 板	3,315	3,595	353	563	7,826
計	8,735	7,370	628	723	17,456

## 三、線 材

	線 材	製 釘 材	計
賣 出	1,000	2,800	3,800
申 込	3,020	2,800	5,820
決 定	1,000	2,800	3,800

## 四、鉄力板(10月渡)

## (一) 賣出、申込、引受數量

	賣 出	申 込	決 定
市場向	1,600	1,810	1,600
實需向	300	300	300
計	1,900	2,110	1,900

## (二) 決定數量

	170封度	100封度	オイルサイズ	計
市場向	885	589	126	1,600
實需向	50	50	200	300

## 條 鋼

申込數量は大體前月と變化がない。10月渡の注目の焦點は前月と同様に細丸で、丸鋼申込の17,000餘噸の殆んど全部が12<sup>m</sup>/m以下の細丸である。其原因も品薄の市價昂騰と、其に供ふ假需要の交錯にあるは勿論にて、恐らく9月以後の輸入によつて緩和せらるゝまたは其現象は繼續せらるゝのではあるまいか。

其他の品種に就ては前月と大同小異で特に注意を牽くものはない、

## 鋼板、線材

鋼板は地場の鈍調が響いてか約4,000噸の申込減少を見た。當所4月渡以降の工場別申込表を掲げると次の通りである。

	4月渡	5月渡	6月渡	7月渡	8月渡	9月渡	10月渡
厚 板	3,330	4,219	1,712	1,128	822	1,312	767
一 中	3,701	7,179	8,921	8,229	9,123	9,121	7,251
二 中	6,879	9,837	10,143	10,557	9,761	8,995	7,737
計	13,910	21,235	20,776	19,914	19,706	19,428	15,755

上表の示す通り中板に於ては概して變化なく経過して居るに反し、厚板工場は5月渡を峠として急轉直下申込の激減を見せて居る。之れ即ち昨年末より製造を開始したる民間の川崎、淺野兩社の活躍を反映するもので誠に喜ぶべき現象である。

線材は申込が不相變多い。之れも市場に於ける根強い好調を裏書きするもので、一時 100 圓臺割れを見た大阪も一高一低復又引き返し近來は 104-5 圓を呼ばれる様になつた。

**東京市況一強含保合** 爲替の低落は其後止まる處を知らず、遂に  $1-10-\frac{9}{32}$   $45-\frac{3}{16}$  と未曾有の安値を現出し然も相當の根強さを持つて居る様觀察せられるし、海外も獨逸國內の需要の旺盛と安府罷業解決による南米方面の輸出増加と相俟つて、7-9-6 などの呼聲さへあり、内地在庫も手薄の状態を續けて居るので、目先強氣構てはあるが、時季が時季として品捌き至つて閑散にて問屋筋も上げられず依然保合状態を脱することを得ざる有様である。

**丸 鋼。**總體に落ち付き模様となつて 3 分も當所物の入荷に刺戟されて 20 錢弱みの下押を見た。4 分は今迄の處、圓滑な需給の爲平調の一路を辿つて來たが月末にかけて稍品薄の状態を現出して、逐次に硬化しつゝある様觀察せられて居る。

**型 鋼。**等邊 50、65、75 などは需給のバランスを失して益々軟化して目先も弱しと見られて居る。不等邊の  $3\frac{1}{2} \times 5$  溝形の  $3 \times 8$  が品薄の爲上伸して居る外保合である。

**鋼 板。**1.6 3.2 はアリ安、其他は弱含みではあるが、どうやら保合つて居る。13 枚物も製品の荷動き閑散の爲安保合の域を脱せず。

**線 材。**大阪高に連れて東京もアリ高歩調を辿つて居る。

**鋳力板。**至極沈靜状態で 5 月以來の永い保合を續けて居る。

外國爲替市中相場

區分	月日	July.21	23	24	25	26	27	28	30	31
日	英	$\frac{1}{10}-\frac{5}{8}$	$\frac{1}{10}-\frac{9}{16}$	$\frac{1}{10}-\frac{1}{2}$	"	"	$\frac{1}{10}-\frac{13}{32}$	$\frac{1}{10}-\frac{9}{32}$	$\frac{1}{10}-\frac{3}{8}$	"
日	米	$45-\frac{7}{8}$	$45-\frac{3}{4}$	$45-\frac{5}{8}$	"	"	$45-\frac{7}{16}$	$45-\frac{3}{16}$	$45-\frac{5}{16}$	"
日	佛	11.60	"	11.55	"	"	"	11.45	"	"

備考 日佛のみ正金建値。

東京市中相場

7月28日

丸 鋼		等邊山形鋼		工形鋼	
寸法	単価	寸法	単価	寸法	単価
6 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> (1 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> " )	13.07 (4.90)	9 × 75 × 75	9.07 (3.40)	0.36' × 5" × 10"	9.60 (3.60)
9 (3 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> )	12.93 (4.85)	9 × 130 × 130	9.33 (3.50)	鋼 板	
12 (1 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> )	10.13 (3.80)	12 × 130 × 130	" ( " )	1.6 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> × 3' × 6'	13.33 (5.00)
3 <sup>1</sup> / <sub>4</sub>	9.73 (3.65)	15 × 150 × 150	" ( " )	1.6 × 4 × 8	12.93 (4.85)
1	9.60 (3.60)	不等邊山形鋼		3.2 × 4 × 8	11.73 (4.40)
50 (2)	9.73 (3.65)	3 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> " × 2" × 3"	9.47 (3.55)	3.2 × 5 × 10	11.87 (4.45)
65 (2 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> )	9.60 (3.60)	3 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> × 3 × 4	" ( " )	6.0 × 4 × 8	10.67 (4.00)
角 鋼		3 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> × 3 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> × 5	10.13 (3.80)	6.0 × 5 × 10	" ( " )
9 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> (3 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> " )	12.00 (4.50)	3 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> × 4 × 6	9.60 (3.60)	9.0 × 4 × 8	" ( " )
12 (1 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> )	9.87 (3.70)	1 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> × 4 × 6	10.27 (3.85)	9.0 × 5 × 10	" ( " )
15 (5 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> )	9.60 (3.60)	溝 形 鋼		薄鋼板(13枚)	
19 (3 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> )	" ( " )	1 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> " × 2" × 4"	9.33 (3.50)	米	75
38 (1 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> )	9.47 (3.55)	0.312 × 2 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> × 5	10.40 (3.90)	英	74
平 鋼		3 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> × 3 × 6	9.87 (3.70)	八 幡	73
1 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> × 1 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> "	11.33 (4.25)	3 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> × 3 × 8	10.13 (3.80)	鋳 力 板	
1 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> × 2	11.47 (4.30)	3 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> × 3 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> × 10	10.00 (3.75)	米	{ 170 <sup>us</sup> 23.30
1 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> × 3	9.60 (3.60)	3 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> × 3 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> × 12	" ( " )	100	12.60
3 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> × 4	9.73 (3.65)	工 形 鋼		英	{ 170 22.80
1 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> × 4	" ( " )	1 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> " × 3" × 6"	9.73 (3.65)	100	12.00
等邊山形鋼		3 <sup>1</sup> / <sub>8</sub> × 6 × 12	10.40 (3.90)	八 幡	{ 170 22.80
6 × 50 × 50	9.20 (3.45)	0.28 × 4 × 8	" ( " )	100	12.00
6 × 65 × 65	9.07 (3.40)	0.35 × 5 × 12	" ( " )	線 材	
				No. 5 #	106.00

備考、單位百磅につき(括弧内は十圓目)。但し薄板は一枚當り。線材は一巻當り。鋳力板は一箱當り。

昭和三年六月分契約高

品 種	區 分	官 廳 小 計		民 間 小 計		六 月 中 合 計			本 年 度 累 計		
		題 數	金 額	題 數	金 額	題 數	金 額	題 當	題 數	金 額	題 當
大	條	1,479	172,317	9,623	923,074	11,102	1,095,391	98.67	33,953	3,280,482	96.62
中	條	491	69,166	7,337	676,806	7,828	745,972	95.30	25,724	2,422,637	94.18
小	條	1,131	147,707	12,713	1,231,170	13,844	1,378,877	99.60	43,789	4,152,845	94.84
鋼	板	913	123,612	14,950	1,568,265	15,863	1,691,877	106.66	45,616	5,096,890	111.73
	重軌條及附屬品	4,355	435,799	10,658	1,050,353	15,013	1,486,152	98.99	91,890	9,281,764	101.01
	輕軌條及附屬品	79	9,452	4,119	262,280	4,198	371,732	88.55	7,593	769,709	101.37
	線			4,563	410,824	4,568	410,824	89.94	13,166	1,155,122	87.74
	黑板、珪素鋼板、鉻力板			5,505	1,233,081	5,505	1,233,081	223.99	15,041	3,305,156	219.74
	車輪、外輪、鍛成品	194	58,725	106	37,286	300	96,011	320.04	2,900	820,617	282.97
	工具鋼、特殊鋼	28	18,450	40	8,660	68	27,110	398.68	489	116,798	278.85
	其他鋼材			7,223	632,150	7,223	632,150	87.52	7,287	649,243	89.10
	鋼材小計	8,670	1,035,228	76,842	8,133,949	85,512	9,169,177	107.23	287,448	31,051,263	108.02
	鋼片、鋼塊、シートバー	105	11,571	9,479	710,141	9,584	721,712	75.30	26,957	1,954,843	72.52
	以上計	8,775	1,046,799	86,321	8,844,090	95,096	9,890,889	102.93	314,405	33,006,106	104.96
	短尺及屑鋼			3,809	276,904	3,809	276,904	72.70	37,881	2,921,625	77.13
	合計	8,775	1,046,799	90,130	9,120,994	98,905	10,167,793	102.80	352,286	35,927,731	101.98
	副製品		13,132		152,324		165,456			1,759,830	
	其他										

備考 1. 單位、題及圓 2. 題及圓以下切捨=付合計ハ符合セス。

八幡製鐵所販賣旬報 第64號 昭和3年7月21日

市場不向品の市場向化 鋼材の供給不足で困つてゐる吾國では一塊の材料でも一片の鐵屑でも粗末にせず巧に之を  
利用して各々其の使命を全うさせ厚生之道を講ずる事は國民たるものゝ義務である、殊に製鐵業に従事するお互は一  
層の注意を以て此の風潮を誘導して行く覺悟を必要とする。

近來當初に於ける市場不向品の減少、短尺、屑類の整理利用に依つて生産高増加、生産費切下げ、販賣收入の増加  
に貢献してゐる所蓋し僅少でない。

下に最近8ヶ月の賣上噸數を掲げて見る、市場不向品は其の減少の傾向を、短尺及び屑類は其の増加振りを見て戴  
きたい。

月 品 種	2年11月	12月	3年1月	2月	3月	4月	5月	6月
市場不向品	2,722	3,381	2,618	2,087	3,096	3,801	1,809	2,131
短尺類	1,686	1,388	1,795	1,353	1,265	1,599	1,549	863
屑類	853	748	766	1,863	1,583	2,269	2,297	1,437

市場不向品は技術上其他いろいろの關係があつて急激に減少は望まれないが最近漸く其の緒に就いた事が窺はれ  
る、吾人は更に短尺及屑類の成品還元に向つて努力すべきである。

5、6月大陸鋼材市況 下記期間中の The Brussels Iron & Steel Exchange の相場下の通り

月 日	5月9日	16日	23日	30日	6月6日	13日	20日	27日
棒 鋼	5-10-6	5-12-6	5-14-6	5-16-0	5-16-6	5-15-6	5-14-6	5-13-6
工 形	4-15-0	4-17-0	4-18-0	4-18-0	4-18-0	4-17-6	4-17-0	4-16-6
大形山形	5-5-0	5-6-6	5-6-6	—	—	5-8-0	5-6-6	5-6-6
鋼板 3/16"	6-6-0	6-8-0	6-8-0	6-8-0	6-8-0	6-8-0	6-7-6	6-6-6
ピレット4"		4-14-0	4-14-6			4-14-6		

單位 磅 F. O. B. アントワープ

1. 5月。4月下旬、ルール炭坑夫によつて起された波紋は再度大陸鋼材市況を順調に導きしこと既報の通りなりし

が5月に入るも其趨勢を變へず、終始順調を以て推移せり。即ち同月前半は内外の買氣旺盛にして價格漸騰し、メーカーは多量の注文を引受け、國際間の販賣競争なし。後半に至りて價格騰貴に妨げられて徐々取引の減少を來せしが、メーカーは新なる注文を欲せざるが故に價格は依然昂騰の一途を辿り、遂に近年に於ける最高相場記録を作れり。

2. 6月。初旬景氣も峠の感ありしが、メーカーは強硬にして値下せず、僅かに獨逸賣手の進出によりて棒鋼のみに反動の氣配あり。中旬以後環境稍悪しく、就中アントワープに勃發せし波止場人夫の罷業は積出會社の努力によりて辛ふじて積出の支障を免れしが輸出市場に重要な影響を齎せり。其他英國方面の思惑賣説、國際鋼塊組合の増産説、或は一時拂底せし半成品の軟化等あり、鋼材市場は活氣を失ひ下旬に入るとともに軟勢漸く繁し。6月26日ジニツセルドルフに於ける國際鋼塊組合の協議の結果第3期(7月-9月)生産高は前期のまゝと決定せしが、一般の豫想通りとして市價軟勢を喰止むることなし。

**10月積先物値段協議會** 7月10日東京出張所會議室に開く。買手側提出外註

値段、希望値段及本所決定値段下の如し。

品名	棒鋼	中小形山形	大形山形	工形	溝形	鋼板	線材	鋳力100封度	170封度
沖着値段	7-4-0	7-3-0	7-0-0	6-10-0	7-2-6	7-17-0	7-9-9	1-0-3	1-17-4
河岸着値段	95,14	94,62	93,08	87,95	94,37	101,81	93,58	11,27	20,71
希望値段	95,00	94,00	93,00	88,00	94,00	101,00	94,00	11,25	20,70
本所決定値段	95,00	95,00	94,00	88,00	95,00	102,00	94,00	11,25	21,00
備考	1圓下げ	据置	1圓下げ	1圓下げ	据置	1圓下げ	1圓上げ	据置	据置

之を前月に比すれば cif price に於て大形山は 6 志、小形山 4 志、棒溝板各 3 志 6 片、工型 3 志の値下りに當り平均 2 圓見當の影響ある譯であつたが同時に爲替が  $\frac{1}{32}$  方下落した爲緩和せられて据置乃至 1 圓下げと上記の如き結果を見た、唯鋳力は輸入値段も發表も共に据置ワイヤロット丈は cif price に於て既に 1 志上り結局獨り 1 圓上げの發表となりたるは異例に屬する。

**輕軌條に就て** 本年、3、4、5 月頃に懸けては輕軌條注文殺到の盛況(主なる注文先は山林局、朝鮮、臺灣方面の諸官署並に日本レール會社)なるにより極力多量製出に努力中、先月偶々約 1,000 噸近くの輕軌條大阪方面に入荷を看、最近に至りては需要の遞減か將又當所の多量製作に努めたる爲にか漸く市場も一服の模様なり。

輕軌條は坊間傳ふる如くには需要増加したるに非ず市場に品薄と見て唯一つの引合ある都度中間のプロウカ連が各レール業者より(オツファー)を取るため如何にも多量の需要を誘導したるかの感を起さしめたるものにして當業者も自己催眠に罹り居ることを忘却して一時騒ぎたることは現在より見て妥當なる觀察と云へよう。

内地一ヶ半間の需要を豫想すれば 16 噸を除いて 3 萬噸内外にして當所製出量丈にて僅に過し得べき筈なるに猶民間にも相當の能力あり従つて一時的現象に眩惑せられ輸入の奇道に走れば何時か唾は己が面上に降り罹るは當然の事なるべし、一犬嘘に吠ゆれば萬犬實を傳ふ例に惑はされず大局より觀察して自繩自縛に陥らぬ襟切に自重を望むのである。

**輕軌條値段改正** 海外強調に連れ當所一般賣輕軌條は 7 月 18 日附從來よりも 1 圓上げの下記の通り改正せられた。

一、15 哩以上注文の場合	レール丈	1 噸に付	金 93 圓替
二、5 哩 "	"	"	金 95 圓替
三、5 哩未満 "	"	"	金 97 圓替

**黑板入札** 黑板は製品の荷動き緩慢で、此雨に祟られ益々盆槍の商状である。當所入札も此市況を反映して前回に比し下値を見せて居る。

當所黑板十三枚物落札値段は下の通りである。

開札日	7 月 21 日	第一薄板工場	188,70-187,53	第二薄板工場	188,60-187,70
前回	"	"	189,11-188,96	"	191,00-189,11

**8 月行事** 本日の木曜會にて來月の行事の決定を見たるもの下の通り

- 1、先物會議、11 日於大阪
- 2、定期契約の確定方法書提出日 3 日
- 3、短尺鋼見積 1 日發表 7 日締切
- 4、黑板見積 7 日發表 14 日締切

外國爲替市中相場

Table with columns for Date (月日), Exchange Rate (July.11, 12, 13, 14, 16, 17, 18, 19, 20), and Location (日英, 日米, 日佛).

備考 d佛のみ正金基値。

東京市中相場

7月19日

Main table for Tokyo market prices, categorized by steel types (丸鋼, 角鋼, 平鋼, 等邊山形鋼, 不等邊山形鋼, 溝形鋼, 工形鋼) and dimensions.

備考。單位百斤につき(括弧内は十貫目)。但し薄板は一板當り。線材は一連當り。鉄力板は一箱當り。

昭和三年六月申戸、大阪、横濱、三港輸入鋼材寸法別總計表

單位、噸、噸以下四捨五入

Large table showing import statistics for steel materials by size and type, including columns for dimensions (寸法), quantity (噸數), and material type (鋼材).



# 昭和二年主要鋼材寸法別生産高及輸入高表

品名	寸法	生産高		輸入高		単位
		数量	重量	数量	重量	
丸	100	100	100	100	100	kg
	105	105	105	105	105	
	110	110	110	110	110	
	115	115	115	115	115	
	120	120	120	120	120	
	125	125	125	125	125	
	130	130	130	130	130	
	135	135	135	135	135	
	140	140	140	140	140	
	145	145	145	145	145	
角	100	100	100	100	100	kg
	105	105	105	105	105	
	110	110	110	110	110	
	115	115	115	115	115	
	120	120	120	120	120	
	125	125	125	125	125	
	130	130	130	130	130	
	135	135	135	135	135	
	140	140	140	140	140	
	145	145	145	145	145	
板	100	100	100	100	100	kg
	105	105	105	105	105	
	110	110	110	110	110	
	115	115	115	115	115	
	120	120	120	120	120	
	125	125	125	125	125	
	130	130	130	130	130	
	135	135	135	135	135	
	140	140	140	140	140	
	145	145	145	145	145	
線	100	100	100	100	100	kg
	105	105	105	105	105	
	110	110	110	110	110	
	115	115	115	115	115	
	120	120	120	120	120	
	125	125	125	125	125	
	130	130	130	130	130	
	135	135	135	135	135	
	140	140	140	140	140	
	145	145	145	145	145	

昭和二年主要鋼材寸法別生産高及輸入高表  
 昭和二年四月三十一日現在  
 製鉄所別生産高及輸入高表  
 製鉄所別生産高及輸入高表  
 製鉄所別生産高及輸入高表